



20th Asian Games
Aichi-Nagoya 2026

第 I 回 検討会 説明資料

2023年6月27日

- 1 第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会
アクセシビリティ・ガイドライン検討会について
- 2 第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会
開催概要
- 3 本日も意見をいただきたい事項
 - ① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について
 - ② アジア競技大会・アジアパラ競技大会にかかる
アクセシビリティ全般について

1 アクセシビリティ・ガイドライン検討会について

●検討会の目的

- ・ 専門家や当事者、関係者の意見を踏まえて、アジア競技大会・アジアパラ競技大会がすべての人々にとって安全、安心な大会を目指し、大会運営にかかるアクセシビリティを実現するため、本検討会を開催する。

●検討事項

- ・ Aichi-Nagoya 2026アクセシビリティ・ガイドライン（仮称）の策定

●検討スケジュール

- ・ 競技会場の改修設計、工事や仮設整備等に影響が少なくなるよう、2023年11月の策定を目指す。

○検討会の想定スケジュール

- ・ 第1回検討会：2023年6月27日
議題：アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について
- ・ 第2回検討会：2023年9月5日（予定）
議題：アクセシビリティ・ガイドラインの素案（技術仕様等）について
- ・ 第3回検討会：2023年10月下旬ごろ
議題：アクセシビリティ・ガイドライン最終案の提示

2 大会開催概要

● 第20回アジア競技大会

大会期間	2026年9月19日(土)～10月4日(日) (16日間)
参加者数(選手・チーム役員)	最大1万5千人
実施競技数	約40競技(想定)

● 第5回アジアパラ競技大会

大会期間	2026年10月(7日間想定)
参加者数(選手・チーム役員)	4000人程度(想定)
実施競技数	約18競技(想定)



2 大会開催概要

【コンセプト】

- ・ アスリートファーストの視点
- ・ 既存施設の活用
- ・ 先端技術の駆使
- ・ 伝統と県民・市民性に触れるおもてなし
- ・ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及へ貢献

2 大会開催概要

【競技会場】

○第20回アジア競技大会

- ・ パリオリンピック競技大会実施競技、組織委員会提案競技のうち調整が整った競技会場を仮決定
- ・ 調整中のものについては、調整が整い次第仮決定する予定
- ・ パリオリンピック競技大会実施競技、組織委員会提案競技以外の競技会場については、市町村や競技団体との調整を踏まえて仮決定していく

○第5回アジアパラ競技大会

- ・ アジア競技大会の会場を中心に活用を想定

※参考資料1 アジア競技大会 競技会場一覧(仮決定会場)を参照

3 本日まで意見をいただきたい事項

- ① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について
 - ①-1 ガイドライン策定の目的
 - ①-2 ガイドライン策定にあたっての考え方
 - ①-3 ガイドラインの骨子(案)について
 - ①-4 考え方(適用範囲、整備方針、数値基準設定)
 - ①-5 技術仕様の主な数値基準(詳細は、次回検討会)

- ② アジア競技大会・アジアパラ競技大会にかかる
アクセシビリティ全般について

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-1 ガイドライン策定の目的

(1) 大会参加者・関係者のニーズに応える

- ・ 組織委員会、開催都市、大会準備に関わるすべての関係団体・行政・事業者が、大会に関するアクセシビリティのニーズを理解し、アクセシブルな環境整備を考慮し、準備に反映する。

(2) 大会を契機としたアクセシブルな環境整備の促進

- ・ ガイドラインを策定し、関係者と共有することで、大会を契機としたハード・ソフト両面の国際的水準に基づくアクセシブルな環境整備を促進する。

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-2 ガイドライン策定にあたっての考え方

- ・ 近年取り組まれた類似の国際スポーツ大会である東京2020大会や大阪・関西万博において策定されたアクセシビリティに関するガイドラインをもとにアジア競技大会・アジアパラ競技大会にふさわしい目標基準としたい。
- ・ アジア競技大会・アジアパラ競技大会のコンセプトのひとつである「既存施設の活用」を踏まえ、既存施設をより多くの人に快適に利用していただけるガイドラインとする。
- ・ 障害のある人や高齢者、子育て当事者や街づくり・障害福祉の専門家の多くの人に関わっていただき、みんなで作り上げる大会を目指したい。

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-3 ガイドラインの骨子(案)について

- ・ 類似の国際スポーツ大会である東京2020大会で策定された「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」をベースに整理した。
- ・ 大阪・関西万博で追加された項目のうち、カームダウン/クールダウンルーム、ベビーケアルームを追加することとした。
- ・ 東京2020大会で記載されていた輸送手段の項目のうち、適用範囲を考慮し、航空、海上輸送手段を対象外とした。

※資料2 ガイドライン骨子(案)を参照

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-4 考え方（適用範囲）

- (1) アジア競技大会・アジアパラ競技大会のすべての会場（競技会場、その他の大会関連施設）のうち、アクセシビリティに配慮が必要な「ステークホルダー」の活動エリア及び動線として、組織委員会が選定するエリア

- (2) アジア競技大会・アジアパラ競技大会の競技会場の周辺に所在する駅施設及び駅から競技会場までのアクセスルートとなる経路のうち、アクセシビリティに配慮が必要な観客の動線として開催都市が選定するエリア（以下、アクセシブルルートという）

※資料3 ガイドライン（案）〈前文のみ抜粋〉1.2.1ガイドラインの適用範囲 を参照

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-4 考え方（整備方針）

- ・ このガイドラインに法的拘束力はない。
- ・ 対象施設の所有者・管理者等に対し、ガイドラインに即した施設建設・改修工事を実施するよう依頼し、レガシーとなる恒常的な施設としての環境整備を働きかける。
- ・ 既存施設を考慮し、恒常的な環境整備が困難な場合、仮設による整備、ソフト的対応により、ガイドラインの趣旨を踏まえたサービス水準を確保する。

※資料3 ガイドライン（案）〈前文のみ抜粋〉1.2.2 ガイドラインを踏まえた整備 を参照

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-4 考え方（数値基準設定）

○推奨基準

・水準の考え方

東京2020大会や大阪・関西万博のガイドラインにおける『推奨基準』、愛知県整備指針や名古屋市指針による『望ましい基準』の水準を総合的に勘案して設定。

・適用の方針

開催都市が保有する新設の会場の大会時の適用範囲において、現場条件や大会後の利用ニーズ等を勘案して、可能な限り実現を目指す。

○標準基準

・水準の考え方

東京2020大会や大阪・関西万博のガイドラインにおける『標準基準』、『愛知県条例』、『名古屋市指針』のうち最も高い水準を基本に設定。

・適用の方針

上記以外の会場及びアクセシブルルートの大会時の適用範囲において、現場条件や大会後の利用ニーズ等を勘案して、可能な限り実現を目指す。

※資料3 ガイドライン(案)〈前文のみ抜粋〉1.2.3基準設定の考え方 を参照

① アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

①-5 技術仕様の主な数値基準（詳細は、次回検討会）

・項目別の数値基準（推奨、標準）などを検討する

その他 競技大会 会場 ・ 関連 施設	敷地内通路（屋外）	幅員
	廊下等（屋内）	幅員
	出入口	幅員
	傾斜路	幅員、勾配
	バリアフリートイレ（多機能トイレ）	数、大きさ
	エレベーター	幅員、奥行、出入口幅員
	観客席	数、車いす1台分のスペース
会場外	歩道	幅員
	公共交通機関の通路	幅員
	駅などのバリアフリートイレ（多機能トイレ）	数、大きさ
	駅などのエレベーター	幅員、奥行、出入口幅員

※参考資料2 主要な数値基準の比較 を参照

②アクセシビリティ全般について

- アジア競技大会・アジアパラ競技大会にかかる
アクセシビリティ全般について、ご意見があればお願いします。